

人と防災未来センターでのボランティアについて

濱中 忠(登録会員)

2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。私は4月中旬に仙台に入り1か月余りボランティア活動しました。その後秋にも行き、延べ2か月間余り活動しました。

その後HAT神戸の『人と防災未来センター』(以下、センターと略)で、ボランティアを募集していることを知りました。私は、阪神大震災を実体験していませんが、東日本大震災直後の惨状を見聞したことを活かして防災・減災を伝えられたらと考え応募し、2012年4月から展示解説ボランティアとして活動を始めました。活動は午前と午後それに金土曜の夜の3つに分かれており、自分の都合の良い曜日、時間帯を週に1回から数回選んで活動することになります。ボランティアには展示解説の他、語学(英語、中国語等)それに語り部があります。展示解説ボランティアは、展示品の説明の他、液状化の実験、耐震・免震等の簡単な実験が主です。年に1回他の同様な防災施設の見学ツアーがあります。また神戸市内、近郊で催される防災・減災関連の各種セミナー、会議等の案内があり、希望があれば参加しやすい環境にあります。センターには、災害、防災、減災等に関する幅広い資料が自由に閲覧できる図書室があります。また周りのボランティアは経験豊かで、それぞれ工夫を凝らした説明をしておられ参考になります。語学ボランティアが比較的少なく、英語の他、最近来客数の多いベトナム、中国の言葉が話せる人が望まれています。

興味のある人には、液状化や耐震・免震の実験をしてみせると、『百聞は一見にしかず』のことわざ通り、より理解して貰えるので、出来るだけ実験をお見せするようにしています。

上述のような環境で、自分自身も防災・減災に関する新しい知識を吸収でき、意識を高めることができます。あなたもボランティアをして南海トラフの地震等いつ起きるか分からない災害に備えませんか。

